

氏名	馬場園 常子		
学位の種類	医学博士		
学位授与番号	博甲第855号		
学位授与の日付	平成2年3月31日		
学位授与の要件	医学研究科内科系脳代謝医学（病態神経科学）専攻 （学位規則第5条第1項該当）		
学位論文題目	低出生体重児の発現要因に関する疫学的研究		
論文審査委員	教授 緒方正名	教授 清野佳紀	教授 関場 香

学位論文内容の要旨

早期産低出生体重児と正期産低出生体重児の発現要因の違いを明らかにする目的で、低出生体重児を早期産群と正期産群との二群にわけて、両群に共通する母集団に対照群を求めて症例-対照研究を行うとともに、低出生体重児の発現要因について、その寄与率を定量的に明らかにする目的で研究を行った。

その結果、早期産での低出生体重児の発現要因としては、性別で男児、両親の年齢が高年齢、両親の身長が低身長、両親の最終学歴が中等教育、母親の喫煙、母親の妊娠中の心配事あり、母親の妊娠中の夜勤業務への就労、妊娠中毒症などが認められた。正期産での低出生体重児の発現要因としては、性別で女児、母親の年齢が低年齢、両親の体格が低体重、低身長、両親の喫煙、母親の妊娠中の就労、妊娠中毒症、高血圧症などが認められた。また、判別分析の結果、早期産での低出生体重児の発現要因としては、妊娠中毒症、父親の低身長、母親の妊娠中の夜勤の寄与率が高く、一方、正期産での低出生体重児の発現要因としては、母親の低体重、父親の低体重、母親の喫煙の寄与率が高く、低出生体重児の発現要因の寄与率についても、早期産と正期産とで異なっていた。

論文審査の結果の要旨

早期産低出生体重児群と正期産低出生体重児群の発現要因の違いを明らかにするために、両群に共通する母集団に対照群を求めて症例-対照研究及び発現要因の寄与率を明らかにした。判別分析の結果、発現要因として早期産では、妊娠中毒症・父親の低身長・母親の妊娠中の夜勤の寄与率が高く、正期産では、両親の低体重、母親の喫煙の寄与率が高く、両群の要因が異なるという重要な知見を得たものとして価値ある業績であり、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。